様式3

学 校 番 号

73

令和 5 年度　学校評価書　（計画段階）

福岡県立ありあけ新世高等学校（全日制課程）

自己評価

学 校 運 営 計 画（4月）

学校運営方針	校訓 「自律・自彊・飛躍」 校是 「新世生よ、人生のプロデューサーたれ！」 「学校ビジョン」及び「生徒行動指針」を具現化し、更には総合学科高校として本校が目指す「確かな学力、健やかな体、豊かな心を持ち、社会の変化に柔軟に対応できる生徒」「主体的に考え行動し、調べる力、聞く力、まとめる力、発表する力を身に付けた生徒」を、成長を実感させながら育成し、地域から愛され、信頼され、誇りとされる日本一の総合学科高校をつくる。

昨年度の成果と課題	年 度 重 点 目 標	具 体 的 目 標	評 価（総 合）
【成果】 1 創立20周年記念行事や各年次の取組を積極的に推進し、生徒が成長する機会を多く設けることができた。 2 授業改善の一環として、ICT機器や一人一台端末の活用に関する研修を充実できた。 3 コロナ禍であっても、インターンシップやボランティア、部活動等、生徒が主体的に取り組む活動を徐々に拡大できた。 【課題】 1 多様な学習活動、学校行事、体験的活動の目的や目標を共有し、生徒の進路実現や成長に確実につなげる。 2 アフターコロナにおいて、これまでの教育活動を精選し、新たな価値を創造する。 3 生徒募集と広報活動を効果的に展開し、志願者確保を図る。	1 生徒の興味・関心を高め、意欲を引き出す「学びの場づくり」を推進する。	（1）「主体的・対話的で深い学び」を実現するために工夫した授業を実践する。 （2）授業アンケートや相互授業評価等を実施し、積極的に授業改善に取り組む。 （3）「産社・総探」の指導内容を共有し、系統的なキャリア教育と進路希望に応じた多様な教育を提供する。	
	2 生徒一人一人が安心してお互いを支え、高め合える「居場所づくり」を推進する。	（1）生徒たちが互いのよさを認め合い、個性や能力を発揮し、協力して課題を解決できる仲間作りを支援する。 （2）いじめの早期発見に努め、協働して組織的に解決を図り、被害生徒の心のケア及び加害生徒への適切な指導を行う。 （3）教育相談体制の充実を図り、生徒・保護者の悩みに対応する。	
	3 生徒の多様な学びを支える「環境づくり」を推進する。	（1）一人一台端末の導入に伴い、ICT環境の充実、端末やSNS等の効果的な活用を検討する。 （2）情報セキュリティや情報モラル、心の教育の充実を図る。 （3）年次及び分掌の連携を強固にし、様々な学習活動を支える校務分掌組織を構築する。	
	4 生徒一人一人が「輝ける（成長が実感できる）場づくり」を推進する。	（1）生徒に主体的に行事に取り組ませることで、達成感や満足感を味わわせ、自己有用感や自尊感情を高める。 （2）年間で取り組む具体的目標を定めさせることにより、チャレンジ精神の啓発を図る。 （3）個に応じたきめ細かな指導により生徒の可能性を伸ばし、個々の進路希望を実現させる。また、資格取得や語学力向上を促すことで、進路保障につなげる。	
	5 地域から学び、地域を支え、地域とともに成長する生徒を育成する。	（1）ボランティアをはじめ、地域との交流活動や体験的学習を積極的に推進する。 （2）地域人材による講演会等を計画的に実施して学びの場を広げ、課題の発見、解決に向かう力を養う。 （3）行政や企業、大学等と積極的に連携し、地域の課題解決に向けた提案などの取組を積極的に推進する。	
	6 総合学科高校の特長の発信及び小・中学校、地域社会との連携強化を図り、生徒募集につなげる。	（1）総合学科高校の特長や学校行事、部活動等を広報し、ホームページの更新を迅速、積極的に行う。 （2）多様な広報コンテンツや伝達手段を構築し、受検生や保護者に確実に情報を届ける。 （3）地域貢献活動の広がりと共に、マスコットキャラクターを効果的に活用する。	

評価項目	具体的目標	具 体 的 方 策	評価（3月）	次年度の主な課題
教務課	学習指導要領に基づいたカリキュラムについて、全職員の共通理解を図る。	カリキュラムの内容・趣旨を確認し、効果的な指導法や新たな方策について各教科で検討し、授業満足度を向上させる。		
		グランドデザインについて検討し、職員研修会や分掌会、年次会等で重点目標等の共通理解を図る。		
		学校設定科目を再検討し、生徒が主体的に学ぶことができる学校設定科目を新設・再編する。		
	主体的・対話的で深い学びに基づく、確かな学力をつけDeep learningを定着させる。	ICT等を活用した授業研究を推進し、1人年2回公開授業を行うことで授業改善し「わくわく」する授業を目指す。		
		目標準拠型評価の効果的活用方法を研究し、授業の工夫により生徒の主体的・対話的な深い学びの工夫を進める。		
		主体的・対話的な深い学びを実感できる学力の評価ついての研修会を2回以上行う。		
	個々の生徒の実態を把握し、能力・適性に応じた指導実践を行う。	進学強化委員会を年3回実施し、指導内容や指導方法について協議を行い、本校の生徒の実態に合った指導のあり方を検討する。		
		規則正しい生活習慣を確立させ、皆勤率50%・家庭学習時間（年次＋2時間）を目指す。		
		生徒の進路希望に関する情報を精査・分析し、ガイダンス等で効果的な二者面談を行い生徒の意欲向上を図る。		
広報企画・研修課	総合学科の魅力を発信及び中学校・地域との連携を図る。	募集戦略を立て、中学校との連携強化を図るため中学校訪問を年3回実施する。		
		中学生体験入学を年2回実施し、延べ320名の参加を目指す。		
		HPの活用・週1回の更新、マスコミへの取材依頼を積極的に行い、積極的に情報を発信していく。		
	主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業づくりの推進を教務課と連携を図りながら取り組む。	公開授業の期間を年間2回設定し、学校全体で授業改善に取り組む体制をつくっていく。		
		授業改善のための授業アンケートを年2回実施し、結果を検証、授業改善につなげていく。		
		2回目の授業アンケートでは、1回目のより授業満足度が上がるように改善に取り組む。		
	教育活動のスムーズな運営を行うため各分掌との連絡調整を行う。	各分掌と連携を取りながら、職員研修会を年6回企画・運営していく。		
		月間行事予定を取りまとめ、月末の運営委員会で提案する。		
		図書委員会との連携を図り、幅広い教養を身につけられるように朝読書を推進する。		

学校関係者評価

評 価（総 合）	自己評価は
	A ： 適切である B ： 概ね適切である C ： やや適切である D ： 不適切である

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見

評価項目	具体的目標	具 体 的 方 策	評価（3月）			次年度の主な課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
生徒指導課	20周年を終えて原点回帰し、これまでの基礎の上に新たな新世スタイルを築く。	ディベートに積極的に取組み、主体性と発言力を育成する。						
		ボランティアを通して、社会との関わりを体験させる。また、福島復興ボランティアを更に推進する。						
		ありしい・しんぱちの活用方法を考えて、地域への発信力を高める。						
	生徒会活動及び部活動、委員会活動の活性化を図り、何事にも主体的に取り組む姿勢を身に付ける。	部活動紹介や体験入部の内容を充実させ、加入率80%、定着率70%以上を目指す。						
		各学校行事後にアンケートを実施し、生徒の行事満足度90%以上を目指す。						
		生徒による、朝の5分間スピーチを週1回行う。						
	安心・安全な学校を目指し、危機管理の徹底と規範意識の醸成を図る。	「いじめ防止基本方針」を全職員で共有し、いじめの未然防止・早期解決に努める。						
		防災避難訓練前に「危機管理マニュアル」を確認し、全職員・生徒の危機管理意識を高める。						
		校則の見直しを通して、相互で注意し合える仲間と規範意識を高める集団を育成する。						
保健環境課	自他に対する安全や健康への意識を高め、健康管理ができる生徒を育成する。	専門家による健康に関する講演会を実施する。						
		保健委員会を活性化させ健康への意識を高めさせる。（委員会毎月2回、保健だより年5回）						
		毎朝の検温などで自己の健康管理を行わせる。						
	教育相談活動の充実を図り、心身ともに健全な生徒を育成する。	教育相談委員会を月に1度開催し、情報の共有と早期の対応を図る。						
		心の教育相談の専門家による講話を2回（職員向け1回、生徒向け1回）行う。						
		SC、訪問相談員を活用し、教育相談の機会を設け、関係諸機関との連携を強化する。						
	環境問題や美化活動に関する知識・理解を深め、主体的に活動できる生徒を育成する。	年2回のクリーンアップウィークを実施し、清掃に対する意識を高める。						
		環境美化委員会を中心に、環境美化に対する意識を高める。（環境美化だより年2回）						
		プラゴミの90パーセント以上分別回収を継続する。						
進路指導課	3年間のキャリア教育を通して生徒一人一人の進路意識を高める。	ガイダンス期間に「進路の手引き」を活用して進路を考えさせる時間を作り、早めに進路希望を明確にする。						
		1，2年次で進路ガイダンス、進路講演会を2回以上企画、実施する。						
		インターンシップや専門学校の無料講座など、生徒の興味関心に応じて校外での活動に参加させる。						
	進路実現に必要な確かな学力を身に付けさせる。	教科、年次と連携し、全員が基礎基本の定着を図り、能力に応じて応用力を養成する。						
		前期課外アンケートの結果を後期に生かし、年度末まで課外出席率70%以上を維持する。						
		3年次の就職・進学面接や小論文を意識して、1年次から原稿なしスピーチや行事ごとの感想に取り組ませる。						
	個に応じた指導体制を確立し、すべての生徒の第一希望進路実現を目指す。	進学希望者には模試を受験させ、結果を分析し、弱点克服に向けた個別指導を行う。						
		公務員希望者には、チームとして互いに切磋琢磨しながら力を付けさせる。						
		進路応援助成金を活用して積極的な資格取得を推奨し、進学・就職の強みとする。						
総合学科推進課	キャリア教育を推進し、全教育活動を通して、社会的・職業的自立に向けた能力と態度の育成を図る。	3年間を通した系統的なキャリア教育の共通理解を図り、年次の産社・総探担当者に探究活動などの情報提供を行う。						
		全教育活動の中で、社会人・職業人としての基礎的・基本的な資質の育成を意図した指導、助言及び評価を行う。						
		産社・総探の授業においては、授業担当者が共通理解をもって指導を行うことができるよう指導案を作成する。						
	「産業社会と人間・総合的な探究の時間」の指導内容を充実させ、3年間を通して系統的指導を計画し実施し、総合学科発表会の成功につなげる。	1年次の産社では、体験的な活動や協働的学び合いを重視し、科目選択や進路実現に結びつくよう3年間の抱負やライフプランを作り、全生徒が原稿なしによる発表を行う。						
		2年次の総探では、個々の進路目標や興味・関心に応じた課題設定を基に課題研究を行い、全生徒がプレゼンテーションを行い、研究の成果を発表する。						
		3年次の総探では、協働的な探究活動を通し、これまでの探究活動をさらに深化させることにより、全生徒の第一希望での進路実現を目指す。						
	地域との連携を積極的に進め、地域の課題を発見し解決する力などの育成を図る。	社会人や本校卒業生、地域で活躍されている方による講演会を前期に実施する。						
		行政や企業、大学等との連携を中心となって進め、活動報告を総合学科発表会で発表する。						
		産社・総探などの活動や成果を地域に発信するために、前期、後期それぞれ5回はホームページの更新を行う。						

評価項目	具体的目標	具 体 的 方 策	評価（3月）			次年度の主な課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
情報管理課	校内の設置されたICT機器の積極的な活用を図る。	ICT機器の配置場所を見直し整備・充実を図る。						
		各ICT機器の利用手順・方法・手続きを明確にし共通認識を深める。						
		ICT機器の積極的な活用を図るため、研修会を実施し福岡県ICT活用推進方針で示されてる令和5年度「ICT活用指導力チェックリスト」5項目を100%達成する。						
	学習用一人一台端末の効果的活用を推進する。	学習用一人一台端末（chromebook）上のアプリの積極的な活用や他のICT機器と連携を行い活用の場を増やす。						
		学習用一人一台端末（chromebook）の校内及び持ち帰りの活用ルールを適宜見直し、現状に即した有効な活用ルールへ改善し有効性・便利性を高める。						
		生徒校内ポータルサイトの立ち上げ・Instagramでの情報発信を目指す。						
	情報セキュリティを強化し情報モラルの向上を図る。	職員研修会や会議において問題事象など多くの具体的事例を職員・生徒に提供することによりセキュリティや規範意識の醸成を図る。						
		校務用PCの適切な管理を行い個人情報など情報管理の徹底を図る。						
		年2回（前期末・後期末）において各サーバー・共有フォルダー内の点検を行い適切なデータ管理を行う。						
1年次	生徒の進路実現への基礎固めとして、「勉強する身体」を育成する。	1日10分机に向かうことから始め、徐々に家庭学習時間を増やし、180分の生徒を7割達成する。						
		大学希望者は模試で偏差値50以上を、その他の生徒はスタディーサポートのGTZでBゾーン50名を目指す。						
		定期考査の欠点者を少なくするよう、担任と教科担当が連絡し合い、考査2週間前からの計画的な学習を促す。						
	キャリア教育を通して、社会や自分のことを知り、自らアイディアを出せる生徒を育成する。	卒業生や外部講師による講話を学期に1度実施し、社会について知ることに努める。						
		生徒に体験させる場を設け、そこで得たものをフィードバックし発表する機会を作る。						
		原稿なしスピーチを基本に、自分の考えを見つめ、自分の言葉で表現できる力を磨く。						
	「新世生」としての自覚を持ち、多様な考えに耳を傾け、他者と共同し合える生徒を育成する。	自らをプロデューサーとする精神を常に意識させ、「新世生」としての自覚を作る。						
		生徒から企画が出るような雰囲気を作り、達成感だけでなく失敗の経験も味わわせる。						
		年次通信を年4回以上発行し、生徒の様子や学校の情報を発信する。						
2年次	生徒の第1希望進路実現を見据え、確かな学力をつけた生徒を育成する。	進研模試については、偏差値50以上の生徒を15名、Bゾーンを50名以上を目指す。						
		5月までに資格取得計画を立てさせ、80%の生徒に1つ以上の資格を取得させる。						
		個々の進路実現に応じた家庭学習時間平均240分確保するためのタイムマネジメントを工夫させる。						
	系統的なキャリア教育を充実させ、豊かな心と、主体的に考え行動できる力を育成する。	キャリアパスポートを電子化し、各行事、ボランティア活動等の振り返りを行い、成長を実感させる。						
		課題研究に紐付けして、オーム乳業コラボ企画、福島県ボランティアを活性化し、社会に貢献する心を養う。						
		進路説明会「新世生だけの学校説明会」（仮称）を生徒主体で企画・運営させる。						
	中核年次としての在り方を自覚し、チャレンジ精神にあふれる活気ある生徒を育成する。	学校ビジョンや年次スローガンを活用し、学校のリーダーとしての自覚を持たせる。						
		学校行事や年次行事において活躍の場を提供し、チャレンジ精神を養う。						
		年次掲示板、HP、年次通信（3回以上発行）を有効活用し、生徒の成長を保護者へ発信する。						
3年次	第1希望の進路実現100%を目指す。	クラス全員と二者面談を行い、生徒理解を深め、資格取得を促すなど具体的な進路指導を早期から継続的に行う。						
		志望校検討会を実施し、クラス・年次間の共通理解を深める。						
		面接指導・小論文指導を早期から着手し、計画的・組織的なサポート体制を確立する。						
	社会的・職業的自立に向け、豊かな人生を送るためのキャリア教育の充実と後輩の規範となる生徒を育成する。	新世の伝統を後輩に伝え、達成感のある学校行事となるように主体性と行動力の向上を図る。						
		「総合的な探究の時間」では、社会参加への意欲の向上と身近な社会問題や課題について主体的に解決していこうとする態度を育成する。						
		進路実現のために外部講師による進路講演会を実施する。						
	保護者や地域社会との連携、信頼関係の構築を深める教育活動を行う。	保護者向けの進路説明会、就職説明会を実施し、進路実現に向けての心構えや進路情報等を共有する。						
		ボランティア活動への参加を促し、公共性、協調性、コミュニケーション力をさらに向上させる。						
		年次通信を年3回以上発行し、生徒の様子や学校の情報を保護者に発信する。						

評価項目以外のものに関する意見

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

・
・
・
・
・